2023年2月1日発行 毎月1回1日発行 第739号

九経連月報
おすの九州・山口
KYUKEIREN MONTHLY

2023
2
February

巻頭言 運輸と観光で九州の元気を創ります
吉永 隆博〔国土交通省 九州運輸局長〕

活動報告 地域間交流の促進～限りある資源の有効活用と日韓中の経済協力について
第20回環黄海経済・技術交流会議

九州の強みを生かした取り組みで「九州将来ビジョン2030」の実現を
顧問会

CHANGE THE WORLD！　九州・福岡から世界を変えよう！
StartupGo!Go!2022



周南工場夜景（山口県）

＼動画はこちらから／

一般社団法人
九州経済連合会

九経連月報
おすの九州・山口 2023/2

CONTENTS

巻頭言

運輸と観光で九州の元気を創ります

吉永　隆博〔国土交通省　九州運輸局長〕… 1

九経連活動報告

地域間交流の促進～限りある資源の有効活用と日韓中の経済協力について

第20回環黄海経済・技術交流会議 … 2

九州の強みを生かした取り組みで「九州将来ビジョン2030」の実現を

顧問会 … 3

CHANGE THE WORLD！　九州・福岡から世界を変えよう！～ StartupGo!Go!2022 ～ … 4

日誌（12月） …… 5

地域政策デザインによる「地域・まちづくり」の提言

地域政策デザインスクール「政策研究発表会」… 6

講演要旨

次世代を見据えた道路政策

国土交通省 九州地方整備局 道路部長　安部　勝也 … 7

関連団体等

知財コラム Vol.11

～海外で事業を展開している企業が外国で特許権等の産業財産権を獲得するには？～

知的財産権研究会 … 8

会員紹介

SCSK株式会社 …… 10

株式会社chaintope …… 11

株式会社ベクトル …… 12

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～　美らイチゴ …… 13

九州・山口地域動向

… 14

表紙説明・スケジュール（２月）・新入会員企業（12月）

… 17

巻頭言

運輸と観光で九州の元気を創ります



吉永　隆博
〔国土交通省　九州運輸局長〕

長引くコロナ禍により、運輸・観光業は大きな打撃を受けていましたが、水際対策の見直しや全国旅行支援等に加え、西九州新幹線開業や佐賀・長崎デスティネーションキャンペーンの効果もあり人流が活発化し、本格的な回復の兆しが見えてきました。

今後は需要回復に向けた取り組みの継続と強化が求められることから、昨年成立した第２次補正予算を活用しつつ、各種施策に取り組んでまいります。

まずは、観光振興について、地域の活性化を図るため、観光資源の磨き上げや地域一帯となった観光地・観光産業のリニューアル・高付加価値化により、地域の「稼ぐ力」を継続的に高める取り組みを推進し、インバウンドについても、本格的回復を見越し、地方誘客・消費拡大に向けた観光コンテンツの磨き上げや受け入れ環境の高度化に対し支援をしてまいります。

特に、本年は世界水泳福岡大会、ツール・ド・九州といった世界的なイベントの開催が予定されており、九州全体への波及効果をしっかり取り込めるよう関係者の皆様と連携していきたいと考えています。

次に、安全安心な輸送環境の実現については、昨年発生した遊覧船による痛ましい事故を決して繰り返さない決意の下、事業者の安全管理体制や監査・行政処分の強化等、安全対策を重層的に強化し、安全安心な小型船による旅客輸送の実現に向けて取り組むこととしています。また、自動車分野においては、飲酒運転や健康起因事故等への対策として、運行管理者への講習や自動車事故対策への支援等を進め、鉄道については、大規模な自然災害のたびに発生する甚大な被害に対応し、関係者と復興に向けた協議を行っていくとともに、できる限りの支援の検討を行ってまいります。

地域の公共交通については、少子高齢化等に伴う需要減少がコロナ禍によって加速度的に深刻化しています。このような状況を踏まえ、昨年、国土交通省が立ち上げた専門家による有識者会議での提言を受け、九州でも公共交通の再構築のための地域交通マスタープランの策定が各地で行われるよう取り組むとともに、これまで地域内で十分に議論されていなかった鉄道のあり方についても、利用者や地域戦略の視点に立ち、未来志向で地域における議論が加速するよう関係者と連携してまいります。

都市部への人口流出や生産年齢人口の減少に伴う、交通・物流の担い手不足の深刻化については、「働きやすい職場認証制度」を活用し、労働条件・労働環境の改善、運転手の確保・育成を推進し、また、関係機関と連携し各種セミナー等を開催するなど、雇用の維持・確保の取り組みを進めてきました。引き続き、このような取り組みを継続するとともに、物流における2024年問題を踏まえた「総合物流施策大綱」によるデジタル化や構造改革、海事分野における「海事産業強化法」に基づく共同事業や次世代技術改革等も併せて進めてまいります。

「運輸と観光で九州の元気を創ります」をキャッチフレーズに、地域の経済界、自治体の皆様と連携し、国土交通行政を推進してまいります。皆様のご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

地域間交流の促進～限りある資源の有効活用と日韓中の経済協力について

と　き　11月25日（金）
ところ　福岡市・電気ビル共創館（九州会場）
出席者　約330名（日韓中オンライン）

第20回環黄海経済・技術交流会議
［九州経済国際化推進機構、経済産業省九州経済産業局、九州経済連合会、韓国産業通商資源部、韓日経済協会、韓日産業・技術協力財団、中国商務部］

環黄海会議は、東アジア・環黄海地域の経済圏域の発展と交流の深化を目指す経済交流プラットフォームとして、九州、韓国、中国の３国政府機関（九州経済産業局、韓国産業通商資源部、中国商務部）と経済団体のパートナーシップの下、2001年３月より各国持ち回りで開催。第20回会合は、韓国・釜山広域市をメイン会場に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続きハイブリッド形式にて実施された。



今年度は、「経済・技術分野」「地域間交流分野」の２つのテーマについて議論が行われた。

まず**「経済・技術分野」**では、九州側より「気候変動に対応したカーボンニュートラル技術の紹介～災害レジリエンス向上に向けて～」「資源の有効利用によるサツマイモ発電」「都市鉱山に含まれる資源の損失を減らし価値を高める方法について」等カーボンニュートラルや資源の有効活用等、近年関心の高い内容について発表を行った。

韓国側からは「韓・中・日３国のオンラインプラットフォーム運営現況と協力手法について」「東アジアサプライチェーン再編と韓中日の協力」他２テーマ、日韓中の経済協力について発表された。

中国側からは「石家荘市の期待に満ちた未来」「遼寧省北東アジア経済貿易協力センターの建設による全面的で対外開放的な新たなフロンティア開拓について」他２テーマ、各地の工業団地について紹介された。

次に、**「地域間交流分野」**では、九州側より「ツール・ド・九州プロジェクトについて」、韓国側より「未来世代のための遠大な挑戦！2030世界博覧会を釜山に誘致!!」「韓・中・日循環的人的資本と技術の蓄積と発展のためのガバナンスの構築」について、中国側より「大湾区に集まって互恵共栄を図ろう」「2022年の唐山市の投資環境についてのご紹介～投資誘致のための絆、投資へ向けた架け橋～」他２テーマ、投資環境についてそれぞれ取り組みの紹介を行った。

九州からの発表は、いずれも具体的な事例紹介であり、今後３国間での実践的な連携に期待したい。



九州側出席メンバー

次回会合（大連開催）では、リアル開催となり、各国とより活発な交流ができる場となることを願う。

【国際部　青松】

九州の強みを生かした取り組みで「九州将来ビジョン2030」の実現を

と　き　11月29日（火）
ところ　東京都・ホテルオークラ東京
出席者　18名

顧問会

会員企業の東京本社の社長、会長、役員などで構成する「顧問会」（会長の諮問機関）を開催し、本会活動を報告するとともに、意見交換を行った。

会議ではまず倉富純男会長が挨拶し、「会長就任から１年半、当地域の課題や九経連として進むべき方向の把握に努めてきた。そうした中で、地域活力を引き出すために優先的に取り組むべきものや『九州から日本を動かす』ために果たすべき九経連の役割が見えてきた。こうした取り組みを通じて足元の課題を一つ一つ解決・深化させていくことで『九州将来ビジョン2030』に示した『幸せコミュニティ』の実現を図っていきたい」と述べた。

続いて、平井彰専務理事から、ビジョン実現に向けた最近の主な取り組みや九州の動きなどについて説明した後、自由懇談に入った。

参加者からは「九州は全国の中でもさまざまな面で非常に恵まれた可能性に満ちた地域であり、そうした強みをさらに生かすべく、将来ビジョンの実現に向けた今後の取り組みに期待する」といったさまざまな意見（別掲）を頂戴した。これらについては今後の本会活動へ反映させていく。



〔主な意見〕

①インバウンド誘客に向けた取り組み

- 国際自転車レース「ツール・ド・九州」の開催は九州各地の良さを国内外に知ってもらう大変良い取り組み。既に海外でもスポーツツーリズムの効果の高さが実証されている。
- 九州には欧米人向けのホテルが少ない。九州各地に海外ブランドのホテルを誘致し欧米からの観光客が増えれば九州の良さが世界に広く認識され、さらに観光地が発展するだろう。

②農林水産業の活性化に向けた取り組み

- 地域農業を地域企業で支える取り組みとしてマッチングアプリを活用したプラットフォームが整備されたが、さらに会員企業には社員のリフレッシュ機会の提供の一環などとして農業体験を実施してもらってはどうか。

③九州スマートリージョン構想

- デジタルを活用して広域連携の新たな社会システムを構築する壮大なイノベーションであり、九州での取り組みに期待している。海外でのカンファレンスにも日本の自治体が参加しており、九州からも参加して最新の情報収集や関係者との人的関係構築を進めるべき。

④スタートアップ

- スタートアップは新会社の設立より新産業の創出が重要。新産業に基づいた企業設立の要素として空港が都市に近いこと、開かれた大学があること、家族を含め生活に便利な場所であることが挙げられ、福岡はその全てを満たしている。九州の可能性に期待している。

⑤その他

- 九州で学んだ優秀な留学生たちが九州外に多数出て行ってしまっているのが問題。九州に長く残ってもらうための方策の検討や九州企業が海外展開する上での活用などが重要。
- 九州からの情報発信が足りない。環境産業や製造業の優位性、将来に向けたポテンシャルの高さなどが国内外に伝わっていない。定住人口増の意味でも情報発信力の強化が重要。

【総務広報部　岡】

CHANGE THE WORLD！　九州・福岡から世界を変えよう！
～StartupGo!Go!2022～

と　き　11月18日（金）
ところ　福岡市・電気ビルみらいホール
参加者　618名（Web視聴回数1,000回）

本会は、（一社）StartupGoGo（代表：岸原稔泰氏）と連携し、九州をはじめ日本を代表するスタートアップが一堂に会する九州最大級のピッチイベント「StartupGo!Go!2022」を開催。㈱FFGベンチャービジネスパートナーズ主催のマッチングイベント「X-Tech Match up 2022」も同時開催された。

当イベントは、イノベーション進展の推進役であるスタートアップの発展を目的としている。九州をオープンイノベーションの先進地とすべく、これまで企業とのマッチング等、起業家に資するさまざまなイベントを実施、世界に挑戦するチャレンジ精神旺盛な起業家を送り出してきた。

第９回目となる今回は、北欧や東南アジアを含む海外や国内から200社を超える応募があり、30社がセミファイナルに進出。多岐にわたる分野のビジネスプランを発表後、６社がファイナルに進出し、選考の結果、「㈱yuni」がグランプリに輝いた。

当日は、全国からスタートアップとの協業でビジネスチャンスを狙う大企業の新規事業担当者やベンチャーキャピタルが多数参加し、スポンサーからも多くの企業賞授与が行われた。

本会は、今後も九州、日本の経済発展に寄与すべく、スタートアップと大企業の連携を積極的に支援していく。

【実施概要】

⑴ピッチコンテスト

優勝：㈱yuni（東京）

ビジネスモデル：使わなくなった寝具を回収して同社のサービス「susteb」により「susteb fiber」という再生素材を生産、新たな寝具や衣料品として再生させる事業。



The Pitch（優勝）㈱yuni

⑵X-Tech Match up 基調講演：

「『Web3』によって変化する、ビジネス環境と地域社会」

㈱フィナンシェ 代表取締役CEO 國光宏尚氏

⑶X-Tech Match up パネルセッション：

「モビリティサービスの未来」

㈱EVモーターズ・ジャパン 代表取締役 佐藤裕之氏、㈱Hacobu 代表取締役社長CEO 佐々木太郎氏

主催：（一社）StartupGoGo
共催：（一社）九州経済連合会
　　㈱FFGベンチャービジネスパートナーズ
協力：福岡市（Ascensionと共同プロモーション）
　　福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議
　　国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）
　　台湾国立交通大学産業加速器（IAPS．NCTU）
　　Fukuoka Growth Next（FGN）
後援：北九州市、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
スポンサー：西日本鉄道㈱、AWS、㈱西日本FH、凸版印刷㈱、九州電力㈱、㈱QTnet、マイクロソフト、他多数

【産業振興部　嶋田】

日誌 12月

1日（木） ［那覇市・沖縄産業支援センター］

【沖縄地区】地域脱炭素の実現に向けた地方公共団体と企業のマッチングイベント
出席者：約100名

地域脱炭素に取り組む沖縄・奄美地域の６自治体と、EVや再生可能エネルギーなど脱炭素技術を有する企業29社による官民連携型の地域脱炭素マッチングイベントを、11月の福岡開催に続き沖縄で実施した（主催：環境省九州地方環境事務所、共催：内閣府沖縄総合事務局・九経連）。

本事業は、環境省九州地方環境事務所と本会が2022年８月に締結した「地域循環共生圏に関する連携協定」に基づく連携事業の第一弾となる。参加企業から「大変有意義であった」「ビジネスにつながる好感触を得た」などのコメントが寄せられた。

1日（木）、8日（木） ［福岡市・㈱アクト CYBERGYM福岡］

セキュリティ技術者（実務者）向け勉強会
出席者：30名

サイバーセキュリティ推進の取り組みの一環として、セキュリティ技術者（実務者）向けの勉強会「サイバーセキュリティトレーニング」を開催。完備された㈱アクトのトレーニング設備において、同社の江藤文治シニアセキュリティエンジニアの指導の下マルウェア感染の検知/封じ込め/削除/復旧までの手順や、Wiresharkキャプチャファイル調査によるフォレンジック対応手順を、実機を操作しながら演習。

受講者からは「普段は体験できない貴重な内容だった」「自社の対策に役立てたい」等の声が多くあり、より実践に近いサイバー攻撃対策を学ぶことができる機会となった。

2日（金） ［福岡市・九経連会議室（Web併催）］

農林水産委員会林業部会第２回モクビル研究会
出席者：45名

本研究会は、木材の消費拡大につながる木造ビルの早期実現に向け、「技術力の向上」と「SCM全体の最適化」等諸課題を洗い出し集合知を形成することを目的としている。今回の先行事例研究では、日本初、壱岐の木造４階建て無垢製材あらわしビルの事例発表を実施。また、SCM最適化検討会では、製材情報集約に関する議論を実施し、調査内容および各県の情報集約方法を決定した。

※次号（３月号）にて詳細を掲載予定

7日（水） ［佐賀県伊万里市・㈱伊万里木材市場他、佐賀市・松尾建設㈱］

農林水産委員会林業部会 現場視察会
出席者：23名

林産業現場の現状・課題を把握し、今後の活動の参考にすることと、川上～川下間の情報共有・連携を目的とした現場視察会を実施。中国木材㈱伊万里事業所の工場視察、㈱伊万里木材市場での事業WGおよび調査・研究WGの実施ならびに市場視察、松尾建設㈱佐賀本店の木造建築の視察を行った。

各々質疑応答が活発に交わされ、木材利用に関する課題やSCM最適化、木造建築の可能性などを学ぶ良い機会となった。今回得た知識・経験を今後の部会活動で有効に活用していく。

8日（木） ［鹿児島県・串木野国家石油備蓄基地、九州電力川内原子力発電所］

九州エネルギー問題懇話会・エネルギー施設見学会
出席者：15名

会員企業を対象に、エネルギー安全保障やカーボンニュートラル達成の観点から、その必要性・重要性が高まっている石油備蓄基地（ちかび展示館）および原子力発電所の施設見学会を実施した。

両施設では施設概要・機能等に関し、展示物を利用して分かりやすく説明。特に、川内原子力発電所では展示施設および発電所構内見学後、発電所幹部社員が参加者からの質問に対し丁寧に対応。参加者は両設備の必要性、重要性等について理解を深めることができた。

8日（木） ［福岡市・九経連会議室］

資源エネルギー・環境委員会第２回CN（カーボン・ニュートラル）推進研究会
出席者：16名

伊藤衡平座長（九州大学大学院工学研究院教授）の開会挨拶の後、九州電力㈱、西部ガス㈱および㈱安川電機からの３名の委員より話題提供をいただいた。

その後、今後の研究会の検討テーマについて意見交換を行った。その結果、九州の工業団地のグリーン化・脱炭素化を目指した電力・蒸気・熱融通システム導入の可能性について調査・検討するとともに、脱炭素技術を有する九州企業と自治体をワンストップでつなぐプラットフォームの創設について検討することとなった。

9日（金） ［福岡市・九経連会議室］

九州女性の会12月例会
出席者：16名

今回は、福岡を拠点に全国で活躍中の料理研究家・武陽子氏（㈱桜坂AZUL代表取締役）のトークショーを開催した。

趣味で菓子教室を始め、本場フランスで菓子づくりを学び、帰国後菓子教室を行う傍ら菓子工房を立ち上げ、日本の四季や地元博多の伝統文化をデザインしたアイシングクッキーの製造を開始。その模様をインスタグラムで紹介したところ関東で評判になり、首都圏の大手百貨店や出版社からの依頼で販売や掲載を行ったこと、さらに歌舞伎関係者の目に留まり、2018年の高麗屋三代襲名時に記念菓子を担当したこと、現在はアイシングクッキーの製造に加え、ペット用クッキーの開発・製造も手掛けるとともに、福岡デザインアワードの金賞や銀賞を受賞したことなど、エピソードの紹介があった。

9日（金）～10日（土） ［北九州市・プレミアホテル門司港］

九州デジタル経営塾 in 福岡・北九州
出席者：45名

企業経営のデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」に、福岡県内の企業21社26名が参加し、２日間の合宿形式で開催した。

㈲ゑびや／㈱EBILABの小田島春樹社長の講演「たった一店舗の老舗飲食店がデジタルツールを組織に武装した新しい店舗運営」に始まり、㈱DXパート

ナーズの村上和彰代表取締役と徳永美紗アドバイザリーパートナーによるワークショップ「『顧客価値起点×デジタル』で皆さんのビジネスを再構築してみましょう！」の受講を通して、DXで実現を目指すデジタル経営の要諦のエッセンスを体験・習得した。

17日（土）［福岡市・ももち浜SRPホール（Web併催）］

第22回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト 最終審査会

出席者：約290名（Web視聴約200名を含む）

九州全域の大学発ベンチャーの振興・育成を目的とする「第22回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」（実行委員長：貫正義九州電力㈱相談役）を、（一社）九州ニュービジネス協議会と連携して開催。今回は31チームから応募があり、１次審査（書類審査）、２次審査（11月）を勝ち抜いた８チームが最終審査会で熱戦を繰り広げた。

グランプリ（優勝）は崇城大学 林田ミウさんの「Proセンタ」に授与された。なお、九州経済連合会長賞は宮崎大学大学院 外山由季さんの「Re-Leaves」が受賞した。　※次号（３月号）にて詳細を掲載予定

21日（水）［熊本市・熊本城ホール（Web併催）］

第４回九州MaaSプロジェクト研究会

出席者：80名

中川信治座長（九経連観光社会基盤部長）の開会挨拶の後、日高洋祐アドバイザー（㈱MaaS Tech Japan代表取締役CEO）より「データ連携・利活用のユースケース」をご紹介いただいた。続いて、事務局より九州MaaSの「必要性」「目指す将来像」「運営体制」等について説明した後、各県および政令市、交通事業者との間で活発な意見交換が行われた。

最後に、国土交通省九州運輸局交通政策部交通企画課の丹下涼課長より「国における地域交通に関する最近の議論状況」についてご説明いただいた。

21日（水）［福岡市・TKPガーデンシティ博多新幹線口（Web併催）］

先導的ＩＣＴ人材育成事業2022年度成果報告会

出席者：61名

「先導的ICT人材育成事業」の一環で、今年度インターンシップに参加した学生の成果報告会を開催。インターンシップに参加した学生のうち17名が、技術面での学びや、生活・意識面での気づき、経験を踏まえた今後の取り組み等について発表した。

発表後には、質疑応答に加え、受入企業からコメント等をいただいた。いずれの発表も参加学生の成長を実感させるものであるとともに、関係者一同が本事業の実施意義や重要性を再認識する機会となった。

24日（土）［福岡市・電気ビルみらいホール］

地域政策デザインスクール「政策研究発表会」

※本ページ下に詳細を掲載

地域政策デザインによる「地域・まちづくり」の提言

と　き　12月24日（土）
ところ　福岡市・電気ビルみらいホール　　地域政策デザインスクール「政策研究発表会」
出席者　130名

九州大学および経済団体等（九経連、九州経済調査協会、西日本新聞社、九州オープンイノベーションセンター、福岡地域戦略推進協議会）は、自立的な地域経営を担う高度人材の育成と、社会課題解決に貢献する教育・研究を目的として、2010年に「地域政策デザイナー養成講座」を開講（2020年度より「地域政策デザインスクール」へ名称変更）。毎年、企業や自治体の職員、経営者、九州大学の大学院生といった多様なメンバーが受講生として地域課題解決の研究に取り組み、その政策やビジネスモデルを社会実装することを目標としている。

提言の具体性や実現可能性を追求するため、今年度は政策提言のフィールドとして、福岡県「直方市」「粕屋町」、長崎県「東彼杵町」、大分県「佐伯市」、宮崎県「宮崎市」と連携し、政策研究を進めてきた。

３年ぶりのリアル開催となった本発表会では、グループごとに、地域の特性や政策課題を踏まえた上で、課題解決に資する方策やモデルを新たな政策として取りまとめ、それぞれの自治体首長に対し、直接提言を行った。

受講生の提言について、㈱グルーヴノーツ・佐々木久美子会長をはじめとしたコメンテーターから「具体的かつ政策に反映できる提言となっている」「皆さんの努力が、これからより磨き上げられ実現していくことを期待する」といった評価、激励があるとともに、各自治体からは「提言を咀嚼し、実行につながるようしっかり検討していきたい」等の言葉をいただいた。

地域社会の課題解決のための政策立案実践の場として、本スクールのさらなる発展が期待される。

【地域政策部　姉川】

講演要旨

次世代を見据えた道路政策

（2022年11月30日（水）交通委員会での講演）

国土交通省　九州地方整備局
道路部長
安部　勝也



1．はじめに

我々は道路ネットワークについて話す機会が多いが、本日は拠点やマネジメントについて重点的にお話しする。ネットワークについて九州の高速道路は、面積や人口が同規模であるオランダと比較する場合が多いが、密度が低く縦軸横軸共に整備が遅れている。一般政府の総固定資本形成（IG）の1996年を起点とした推移をみると世界各国がIGを右肩上がりに伸ばしている中、日本は横ばい。整備の遅れに対応していない。整備には時間を要するため、今の決断が将来に影響を及ぼす。

2．ネットワークの整備

道路ネットワークは構想から完成を迎えるまでに時間を要する。民間の方とお話しすると時間軸の違いを感じることが多い。「下関北九州道路」は環境アセスの段階。「中九州横断道路（大津熊本道路）」は熊本から大津西まで13.8km区間が事業中。11月に佐賀県まで延長開通した「有明海沿岸道路」は開通延長に比例して沿線開発が加速し、企業や商業施設等が沿線地域に相次ぎ進出するなど効果が著しい。熊本都市圏連絡道路などの将来構想もあり、地域にとって大事。丁寧に進めたい。

3．リンク×ノード×マネジメント

ネットワークの整備に加えて、道路を最大限活用するための拠点の整備も多数進めている。まず、「スマートインターチェンジ（SIC）」。日本のICは、約10km間隔の平均で設置されているが世界では５km間隔。その間のICの１つとして、ETC専用で低コストのSICがある。現在九州では16箇所で供用中、２箇所で事業中。利用台数も好調。次に、物流業界2024年問題（労基）も視野に入れた「中継輸送拠点」整備は、当該拠点での中継輸送により片道走行距離やドライバーの拘束時間の短縮を図る。コネクトエリア浜松（静岡県）が有名。次に、「道の駅」は各地の創意工夫により、年間売上額約2,500億円、年間購買客数は約２億4,000万人（2015年度）という状況。今後も地方創生・観光を加速する拠点として、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等とのつながりを面的に広げ、魅力的な地域づくりに貢献していく。最近では、授乳施設の整備など子育て環境にもやさしい道の駅を目指す駅も多い。次に、「高架下空間」の活用。所要の手続きを踏めば民間活用が可能。しかし現状は鉄道高架下と比べると利用が進んでいるとは言いがたい。ぜひ興味がある方は道路管理者に相談いただきたい。次に「自転車」。走行空間のみならず拠点の整備も我々の仕事。しまなみ街道をはじめ６つのナショナルサイクルルートがあるが九州にはまだない。インバウンドも多く世界的にも有名。引き続き力を入れていきたい。

また、インフラデータを活用してマネジメントする時代となっている。九州地整には管内1,626台の道路管理用CCTVカメラの映像情報、ETC2.0による走行履歴データ等のデータ、モービルマッピングシステムによる３次元点群データ、橋梁等の点検データなど道路に関するさまざまなデータがある。これらのデータについては、民間でも使えるようにオープンデータ化が進んでいる。例えば３次元点群データは自動運転のデジタル地図への活用が可能である。自動運転といえば道路インフラ側もその走行を支援する技術開発が進められている。合流時などインフラ側の情報は不可欠。引き続き進めたい。

4．今後の展望

ネットワーク、拠点、そしてさまざまなデータを使ったマネジメントにより、地域活性化、観光、物流等多様な側面に良い効果をもたらすことができるようにしたい。さらには、経済界の方々との濃密なコミュニケーションを継続して、お互いの取り組みが九州経済に良い効果を生むように一緒に頑張りたい。

知財コラム Vol.11

～海外で事業を展開している企業が外国で特許権等の産業財産権を獲得するには？～

知的財産権研究会

ビジネスにおいて企業などが直面する知的財産権に関する課題とその対策について、Q＆A形式で九経連の知的財産権研究会がお伝えします。

Q１．海外で事業を展開している企業は、外国で特許権等の産業財産権を取得する場合が多いようですが、外国特許出願を行う意義を説明してください。

A 企業が海外でビジネスを展開している場合、日本と同様、ビジネスを行っている国においても、特許権などの産業財産権を取得することがよく行われます。

というのも、日本で特許権を取得しても、その権利の効力は海外には及ばないからです。これを「各国特許独立の原則」といいます。

そこで、海外においても、日本国内と同様（図１参照）、企業間競争を優位に進めるために、特許権という武器を取得し、その独占的効力を活用してその国の競合企業との競争を優位に進めようとするものです。

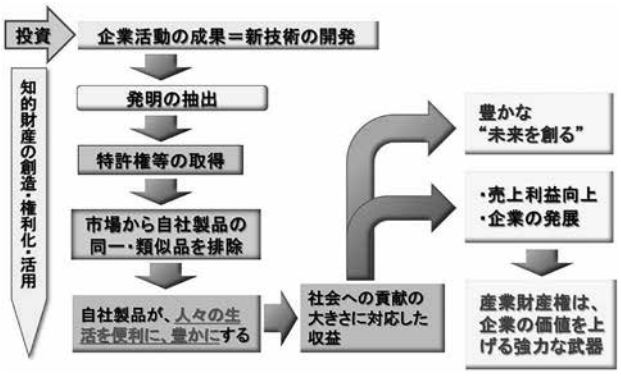


図１．産業財産権の取得と企業の発展

Q２．それでは、外国で特許権などの産業財産権を取得すると、企業にとって具体的にどのようなメリットがあるのでしょうか？

《知財コラム》
九経連・知的財産権研究会は2019年度下期よりコラム形式で寄稿し（11月号、２月号、６月号）、今回で11回目となります。
引き続き、会員の皆様のご質問やご要望を踏まえたテーマでコラムを展開していきたいと考えています。

A 外国で特許権などを取得するメリットとしては、まず、特許権などの独占的効力により、他社が自社製品に搭載した技術やデザインについて模倣されることを抑制できることです。

模倣され他社に同様の製品を安く販売されると、自社のビジネスに多大な影響を及ぼされる可能性があるからです。

模倣された場合、提訴することにより模倣製品の販売を排除することができます。その結果、自社の開発技術を守ることができます。

次に、模倣品を特許権取得国の市場から排除することにより、市場におけるシェアを獲得することにつながります。

また、自社だけではその国の市場のニーズに量的に応えられない場合などは、他社にライセンスすることにより、ライセンス収入（実施料収入）を得ることができます。

さらに、ビジネスを行っている国で、万一、自社の製品が他社の特許権などを侵害しているとき、自社の特許技術が他社にとって魅力的である場合、その紛争を解決するための交渉材料となることもあり得ます。

何の武器も持たずに海外進出をするのは不安ですので、できるだけ多くの産業財産権を武器として確保しておきたいものです。

Q３．外国出願は、翻訳費用や現地の代理人の費用など、国内より高額になりそうですので厳選して出願したいのですが、どこの国に出願するか、その判断の仕方について解説してください。

A 外国出願の出願国の決定にあたっては、少なくとも次のことを検討されることをおすすめします。

表１．出願国の決定にあたっての検討事項

①自社の生産規模　②自社販売規模
③特許に係る製品の市場規模
④競合企業の状況　⑤契約（技術供与など）
⑥その国の産業財産権関連の法体制

表１の①②については、その国での生産計画の規模や販売計画の規模が大きい場合は、他社による模倣被害も大きいので、特許権などの独占的効力を得ておくことが重要となります。

③の特許に係る製品の市場規模が大きい場合は、特許発明の独占的実施により市場シェアを獲得し、製品の売上も大きくなることから、他社牽制の目的で特許権などを取得することが多いです。逆に、市場規模が小さい場合は、売上に伴う利益が特許権などの出願・権利化・権利維持のための費用に消えてしまうようでは経営を圧迫することになりますので出願を控える判断もあり得ます。

④については、競合企業が権利行使を積極的に行う場合は、自社も競合企業が欲しがりそうな特許権などを多く確保して、パワーバランスを保つことを考慮したいところです。

⑤の契約の関係では、技術供与に関する契約において、特許権やノウハウが存在することが前提となりますので、他の検討事項はどうあれ、出願を行い権利化しておくことが求められます。

⑥については、国によっては、産業財産権の保護が、日本や欧米ほどしっかりなされない実情の国があります。この場合は、特許権などの取得の動機が小さいといえます。

Q４．外国出願を行うにはどうしたらよいでしょうか？

A 外国出願を行うにあたっては、いくつかの出願の仕方がありますが、ここでは、特許協力条約（PCT）による国際特許出願の方法をご紹介します。



図２．特許協力条約（PCT）のしくみ

PCTによる国際出願の場合、日本特許庁に日本語で出願することにより、世界知的所有権機関経由で、外国においても日本特許庁の受付日に特許出願した日（出願日）として認定されるので手続きが簡便です。

出願後、約２年半以内に実際に権利化する国を決めれば良いので、出願国の選定の判断の時間を十分に確保することができます。

（文責：九経連・知的財産権研究会
運営委員　白垣耕一郎、山野秀二）

（知的財産権研究会開催概要）
■定例会開催日：毎月第３金曜日　13:30～17:30
■開 催 場 所：九州経済連合会会議室
※オンライン参加もできます。
■年会費：法人12,000円　個人6,000円
■研究会ＨＰ：
http://k-chizaiken.sakura.ne.jp/htdocs/
■知財事項の質問およびお問い合わせ受付：
事務局　担当：嶋田　TEL：092-791-4278
E-mail：chiteki-info@kyukeiren.or.jp

Member Introduction
会員紹介

SCSK
夢ある未来を、共に創る。

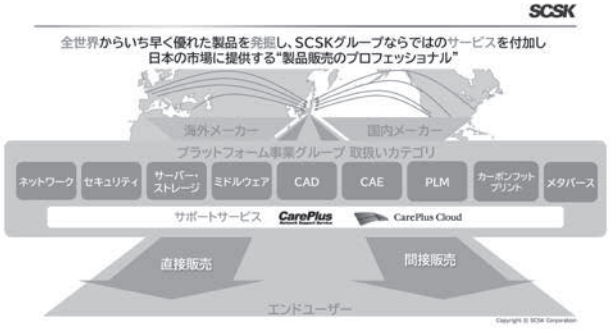
<2022年１月21日入会>

法人紹介

SCSKグループは、幅広い業界のＩＴニーズに長年応え続ける中で、製造、流通、金融、通信、運輸業をはじめ、多様な業種にわたる約8,000社のお客様と強固な信頼関係を構築しています。

当プラットフォーム事業グループでは、全世界からいち早く優れた製品を発掘し、SCSKグループならではのサービスを付加し、日本市場に提供する“製品販売のプロフェッショナル”としての挑戦を続けています。現在は、「ネットワーク」「セキュリティ」「サーバー・ストレージ」「ミドルウェア」「CAD」「解析・CAE」「PLM」の７つの製品カテゴリを軸に、プロダクトの販売、構築、サポートを提供しており、既存製品カテゴリの戦略策定・実践と並行して、第８、第９の製品カテゴリ創出に向け、今後期待感の高いターゲット領域である「カーボンフットプリント」「メタバース」に注力し、新商材獲得やノウハウ蓄積などさらに積極的に取り組んでまいります。企業のＤＸ推進を支える製品を常に拡充し、豊富な製品群とエンジニアのスキル・ノウハウをお客様の課題に合わせてコーディネートすることでお客様満足度の向上、SCSKグループ全体の事業拡大を目指します。

今後も、長年にわたって積み重ねてきたお客様との信頼関係を活かし、お客様のビジネス変革を支援する「価値共創型ビジネス」へ転換しながら、信頼できる戦略的ＩＴパートナーとして、さらなる関係強化に努めていきます。



法人概要

法人名	SCSK株式会社
設立	1969年10月25日
代表者	代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者　當麻 隆昭
事業内容	コンサルティングから、システム開発、検証サービス、ＩＴインフラ構築、ＩＴマネジメント、ＩＴハード・ソフト販売、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）まで、ビジネスに必要な全てのＩＴサービスを、フルラインアップでご提供します。
従業員数	14,938名（連結）、8,462名（単体）（2022年３月31日現在）
本社所在地	〒135-8110　東京都江東区豊洲３-２-20 豊洲フロント
電話番号	03-5166-2500
関連会社等	国内17社　海外６社
ホームページ	https://www.scsk.jp/



業務役員 プラットフォーム事業グループ
九州プラットフォーム事業本部長
大塚　誠也

当社は、「夢ある未来を共に創る」の経営理念の下、グローバルＩＴサービスカンパニーとして、国内外のお客様に対し、システム販売・開発・運用を軸に事業展開をしています。

九州においては、1983年に博多駅前に営業所を開設、2023年には、40周年を迎えることとなりました。一人の社員の小さな一歩から、現在では、SCSKグループ総勢1,500名を超える社員が、この地でステップを踏んでいます。これからも、九州・山口の経済発展、そして地域における社会的課題解決に向けて、グループ全体で取り組んでまいります。

Member Introduction
会員紹介

chaintope

<2022年４月１日入会>

法人紹介

当社は福岡県飯塚市において2016年に起業し、一貫して福岡県および飯塚市から世界へのブロックチェーン技術の発信を行っています。事業内容は、ブロックチェーン「Tapyrus（タピルス）」の開発および、Tapyrusを利用したアプリケーション開発を支援する「Tapyrus API」の提供です。

Web３と呼ばれる分散型社会を実現するための基盤技術としてブロックチェーンは必要不可欠です。創業時より社会実装を目的として研究開発してきたブロックチェーンTapyrusはエンタープライズ利用を前提として設計され、かつ、透明性を担保したブロックチェーンです。

そのTapyrusをさまざまな事業領域で扱うために用途に特化したTapyrus APIでは４つのAPIを提供しています。１つ目は「サステナビリティAPI」で、サプライチェーン全体で取り組むカーボンニュートラルの可視化を実現します。２つ目は、記録した情報（点）をつなぎ追跡可能（線）とし価値を創造（面）する「トレーサビリティAPI」。３つ目の「トラストサービスAPI」は、情報を適切な相手と適切な範囲を指定して共有し証明します。４つ目の「デジタルアセットAPI」では、地域やコミュニティが持つ法定通貨とは異なる新たな価値を表現します。

Tapyrus APIを用いることでブロックチェーンを用いたアプリケーションの開発が容易となり、企業のWeb３への参入障壁を大きく下げることが可能です。当社は分散型社会の実現へ向けてパートナー様と共に新たな事業開発にチャレンジしており、これまでの知見を集約させてサーキュラーエコノミーの実現を目指します。

法人概要

法人名	株式会社chaintope
設立	2016年12月27日
代表者	代表取締役　正田　英樹
事業内容	・パブリックブロックチェーン「Tapyrus（タピルス）」および関連ＡＰＩサービス提供 ・ブロックチェーン技術 研究開発 ・ブロックチェーン技術 コンサルティングサービス
従業員数	７名
本社所在地	〒820-0066　福岡県飯塚市幸袋530-25
関連会社等	株式会社ハウインターナショナル
ホームページ	https://www.chaintope.com/



代表取締役　正田　英樹

私どもは、日本発で産業向けブロックチェーン基盤技術Tapyrus（タピルス）を世界に発信しております。現在特に力を入れておりますのは、サーキュラーエコノミー（循環経済）向けに、製品のトレーサビリティ、CO_2削減の可視化・価値化です。製品が間違いなくリサイクル材によるものであること、また脱炭素製品であることを証明するCO_2削減証書を用いた取引を実現できます。今後多くの企業様との連携を図りたいと願っております。



サーキュラーエコノミー事業の一環として九州工業大学と共同で実施している「カーボンニュートラル・キャンパス」プロジェクト

Member Introduction
会員紹介

vector

<2022年４月１日入会>

法人紹介

ベクトルグループは、41の事業会社と、中国・韓国・ASEANなどアジアを中心とした14の海外拠点で形成される、アジアNo.1*のＰＲ会社です。当社では、そのグループシナジーを活かしたソリューションを強みに、「いいモノを世の中に広める」ためのコミュニケーション戦略を、従来の戦略ＰＲ領域に留まらずＳＮＳやアドテクノロジーを活用した動画、ＷＥＢ制作やメディア運営など最新のマーケティング手法を取り入れながら、ワンストップで企業に提供しています。

九州エリアは産業におけるイノベーションの創出や、新たな起業・創業が進んでおり、今後さらなる経済成長が期待されると考え、拡大する九州エリアのＰＲニーズを見込み、2022年３月に九州支社（福岡市）を開設いたしました。

今までベクトルでは全国の企業様を中心に総合ＰＲ会社として、コミュニケーションサービスを展開していましたが、九州支社の設立を機に、今まで培ったノウハウを活かし、九州エリアの企業へのＰＲサポートを強化することで、「いいモノを世の中に広め人々を幸せに」というビジョンの実現の拡大を目指してまいります。

＊PR WEEK｜PRWeek Top Consultancies 2020: Asia-Pacificより

■グループ会社（国内）

vector ANTIL / vector Platinum / vector INITIAL / vector VECKS / Starbank
News Technology / IR / Public Affairs Japan / vector SIGNAL / EVECH
BRAND CLOUD / PR TIMES / NEWS TV / Smartmedia / Vitabrid C12
Direct Tech / あしたのチーム / INFLUENCER BANK / MEDICAL / PERFORMANCE

法人概要

法人名	**株式会社ベクトル**
設立	1993年３月30日
代表者	代表取締役　西江　肇司
事業内容	ＰＲ事業、プレスリリース配信事業、ビデオリリース配信事業、ダイレクトマーケティング事業、メディア事業、HRTech事業、デジタルマーケティング事業、インベストメントベンチャー事業 等
従業員数	グループ従業員数 連結：1,303名 （2022年２月28日現在）
本社所在地	〒107-0052　東京都港区赤坂４-15-１ 赤坂ガーデンシティ18階
電話番号	03-5572-6080
ホームページ	http://www.vectorinc.co.jp/



九州支社長　大庭　典子

ベクトルの九州支社は2022年３月に開設し、九州エリアの企業・団体様を中心にＰＲサービスを展開しています。ＰＲ戦略の立案や実行、リリース作成から全国メディアへのアプローチ活動などの広報代理はもちろん、SNS施策やデジタル施策など、全国、アジアも意識した「ヒトを動かす」ためのソリューションを提供しています。

ＰＲ会社の仕事の本質は「企業が広めたい情報」と「消費者が受け取りたい情報」の間を取り持ち、ギャップを埋めることだと思っています。ＰＲ活動は九州ではまだ根付いていない商習慣ですが、企業・団体様に寄り添いながら、九州のいいモノを世の中に広め、九州社会に貢献すべく、サービス提供を行っています。

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)



第40代沖縄観光親善大使ミス沖縄
スカイブルー
翁長愛音

皆さま、はいたーい！ミス沖縄スカイブルーの翁長愛音です。
今回は、２月の沖縄で見逃せない「イチゴ狩り」と「プロ野球キャンプ」をご紹介いたします。
日々、YouTubeやFacebook、Instagramを通して、沖縄の魅力をお届けしております。ぜひチャンネル登録&いいねをお願いします!

■「ミス沖縄公式YouTubeチャンネル」はこちら https://bit.ly/2Fa1tlW

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止に取り組んでいます！

美らイチゴ

［沖縄県南城市玉城垣花555］

夏のイメージが強い沖縄ですが、イチゴ狩りができることをご存じでしたでしょうか。ここ数年、沖縄でもイチゴ狩りが盛んで、12～５月頃まで楽しむことができます。サンサンと降り注ぐ沖縄の太陽と海風に育まれたイチゴは、ミネラルたっぷりです。イチゴ狩りができる施設は県内各地にありますが、今回はミス沖縄クリーングリーングレイシャスの新垣さんと一緒に、南城市にある「美らイチゴ」にてイチゴ狩り体験をしてきました！

ビニールハウスの中に並んだプランターには、ぎっしりと真っ赤なイチゴが並んでおり、入場した時からワクワクが止まらない空間でした。イチゴの品種は代表的な「かおり野」をはじめとした４種類があり、それぞれ食べ比べができるのもイチゴ狩り体験ならではの贅沢な楽しみ方です♪また、ハウスの中ですので雨の日でも体験でき、プランターの高さも低く、お子さまや車椅子の方でも楽しむことができます！

イチゴ狩りを楽しんだ後は、お隣のカフェにてイチゴを使ったスイーツを楽しむことができます。スムージーとプリンをいただきましたが、どちらもたっぷりとイチゴが使われており、濃厚な味でした！皆さまも冬の沖縄でイチゴづくしの体験をしてみてはいかがでしょうか？



今月のおススメ

プロ野球春季キャンプスタート！





毎年賑わいを見せるプロ野球キャンプですが、今年はWBC (WORLD BASEBALL CLASSIC) が開催される年であることから、さらに注目され、盛り上がりを見せています。私の出身地「浦添市」では毎年東京ヤクルトスワローズがキャンプを行っており、キャンプの時期が近づくと市内の至る所に歓迎の旗や横断幕が並び、市全体で応援し盛り上げています。県内各地でプロ野球キャンプが行われておりますので、各球団のキャンプ地巡りを楽しみながら、それぞれの地域の魅力も感じていただきたいです。

ミス沖縄の活動についてはこちら
ミス沖縄 検索

沖縄観光情報についてはこちら
おきなわ物語 検索

皆さまへ沖縄の魅力をお届けいたします。

地域動向

九州・山口

山口 Yamaguchi

「ふるさと山口就職ガイダンス」を開催

山口県内での就職を促進するため、2024年３月以降に卒業予定の学生を対象に「ふるさと山口就職ガイダンス」を開催する。

ガイダンスには、約80社の企業が参加し、さまざまな業界・職種の話を聞くことで、魅力的な県内企業を見つけることができる。また、公務員志望者相談コーナーでは、県庁や市役所の職員から、公務員の仕事について話を聞くことができる。

さらに、個別就職相談コーナーでは、キャリアカウンセラーが就職活動の相談に応じ、自分の適性を確認したり、就職活動のヒントを得たりすることができる。そのほか、エントリーシートなどの書き方が学べる就活応援講座なども開催する。

参加無料、入退場自由、予約不要（バス以外）のため、ぜひお気軽にご参加いただきたい。



【開催日時】
２月17日(金) 10時～16時
【開催場所】
山口グランドホテル（山口市小郡黄金町１－１）
《問い合わせ先》
山口しごとセンター
TEL：083-976-1145

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更になる場合があります。最新情報については、山口しごとセンターにご確認ください。

福岡 Fukuoka

「ワンヘルスの森ミュージアム」がオープン！

福岡県では、「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」というワンヘルスの理念を実感できる場所として、福岡県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森　四王寺」として整備している。

このたび、森の敷地内にある学習展示館を、「ワンヘルスの森ミュージアム」としてリニューアルし、オープンした。

「ワンヘルスの森ミュージアム」では、木の香りに包まれた心地よい空間で、森に生息する動物や四季折々の植物のほか、森林浴の効能などについて学ぶことができる。

今後は、自然の中でワンヘルスを実感していただく森林浴の体験ツアーなどを実施していく。

【概要】
○場所　「ワンヘルスの森　四王寺」
福岡県糟屋郡宇美町大字四王寺
○利用時間　４月～９月　９時～18時
10月～３月　９時～17時
○休園日　毎週月曜日　　○入場料　無料
《問い合わせ先》
福岡県林業振興課　TEL：092-643-3536

佐賀 Saga

旅に役立つ佐賀観光デジタルマップ「TAP MAP SAGA」スタート！

佐賀の観光やレジャーが、もっと便利で楽しくなる観光デジタルマップ「TAP MAP SAGA」がスタートした。アプリのダウンロードは不要で、無料ですぐに使うことができる。

スマートフォンの位置情報をＯＮにすると、現在地周辺の観光スポットや飲食店等の施設情報、近日開催のイベント情報等が写真付きでマップ上に表示され、「グルメ」「泊まる」「遊ぶ」など目的に合わせたカテゴリー検索やキーワード検索も可能。クーポンマークがついているスポットでは、飲食やお買い物、施設の利用などでお得なサービスを受けることもできる。また、「案内を開始」ボタンをタップするだけで、目的地までの経路をナビゲート。快適な佐賀の旅をサポートしてくれる。

TAP MAP SAGAは、その時の気分や旅の目的に合わせたお店探しだけでなく、長く佐賀の人々に愛され地域に育まれてきた「後世に残したい店」や、農家レストラン・観光農園など佐賀の自然の恵みを体感できる「さが農村ひろば」といった佐賀ならではの魅力的な観光スポットなどが満載。今まで知らなかった佐賀と出会うきっかけとなることが期待できる。佐賀へお越しの際には、ぜひTAP MAP SAGAと一緒に新しい佐賀の発見とスマートな佐賀めぐりを満喫いただきたい。



《問い合わせ先》
佐賀県観光連盟　TEL：0952-26-6754

長崎 Nagasaki

「長崎デザインアワード2022」大賞商品決定！

長崎県では、県内企業のデザイン力を高めることによる売上拡大を目的に、県内で企画・生産されている商品の中から、優れたデザインのものを選定・表彰する「長崎デザインアワード」を実施している。

今回は、94点の応募の中から、23点を大賞・金賞・銀賞・特別賞・入選に選定した。大賞の「平戸百菓繚乱」は、平戸藩に伝わる菓子図鑑「百菓之図」に描かれた菓子をもとに、平戸商工会議所や地域の５つの菓子メーカーが協力し、現代風にアレンジした商品で、ブランド価値を創出した秀逸なデザインが評価された。

本アワードは、12回目を迎え、食料品から陶磁器まで幅広い分野からの応募があり、長崎らしいデザインや、長期的な視点に立ったブランド戦略を取り入れた商品などがあり、これまで以上にデザインへのこだわりを感じられた。

受賞商品については、商業施設での販売会などの販路拡大の支援を行っており、２月末まではウェブサイト「e-ながさきどっとこむ」で販売している。



平戸百菓繚乱

e-ながさきどっとこむ　受賞商品一覧

《問い合わせ先》

長崎県企業振興課

TEL：095-895-2637　長崎デザインアワード　検索

熊本 Kumamoto

「野原八幡宮風流」を含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録！

2022年11月30日（水）、「野原八幡宮風流」（荒尾市）を含む全国41件（九州では７件）の民俗芸能で構成された「風流踊」が、ユネスコ無形文化遺産に登録された。県内のユネスコ無形文化遺産は、「八代妙見祭の神幸行事」（八代市）を含む「山・鉾・屋台行事」（2016年登録）と、今回の「風流踊」を含めて２件となる。

この「風流踊」は、中世に趣向を凝らした衣装を身にまとった集団が太鼓や笛、鉦等の囃子にあわせて舞い踊ったものを起源とする芸能で、日本各地の盆踊り等のもととなった。

「風流踊」の一つである「野原八幡宮風流」は、荒尾市の菰屋、野原、川登の３地区にそれぞれ伝わり、毎年10月15日の野原八幡宮例大祭（通称、のばらさん）にて奉納される芸能で、色鮮やかな衣装をまとった各地区２人の稚児が大・小の太鼓を打ちながら踊るものである。

2023年10月15日（日）には、ユネスコ無形文化遺産登録後初めて、野原八幡宮境内で奉納される予定である。古来より伝わる稚児の雅な踊りを、ぜひ多くの人にご覧いただきたい。



野原八幡宮風流（菰屋地区）の様子（荒尾市提供）

《問い合わせ先》

熊本県教育庁文化課

TEL：096-333-2707

FAX：096-384-7220

大分 Oita

「The・おおいた美味いものフェア」イオン京都桂川で開催！

京都市南区にあるイオン京都桂川で、２月17日（金）から21日（火）まで「The・おおいた美味いものフェア」を開催する。このフェアは、2015年度から毎年開催しており、今年で８回目となる。大分県産品の販売拠点である関西地区で、県産の農林水産物、物産・加工品の消費や販路拡大を図るとともに、「日本一のおんせん県おおいた」をＰＲすることで、大分県への観光誘客を目指す。

期間中、イオン京都桂川の１階食品売り場と川の広場において、催事を実施する。食品売り場では、大分特産の「ベリーツ（いちご）」「大分白ねぎ」「甘太くん（高糖度かんしょ）」「原木生椎茸」「かぼすブリ」「おおいた和牛」等の宣伝販売を実施する。川の広場においては、大分の銘品、加工品等の宣伝販売および実演販売を行う。

また、２月18日（土）は竹の広場において、大分県と県内６市町（大分市、別府市、杵築市、宇佐市、国東市、日出町）などによる観光ＰＲブースを設置する。各ブースをまわってクイズにチャレンジし、正解するとプレゼントがもらえる『クイズラリー』も実施予定だ。



この機会に、関西在住の方々にイオン京都桂川を訪れていただき、大分県産の農林水産物をご賞味いただくとともに、大分県の魅力に触れてもらいたい。

《問い合わせ先》

大分県大阪事務所　TEL：06-6345-0071

宮崎 Miyazaki



がんばれ侍ジャパン！ 宮崎から３度目のＷＢＣ制覇へ

今年３月に開催される第５回ＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）に向けて、日本代表チームの侍ジャパンが２月17日（金）から27日（月）にかけて、ひなた宮崎県総合運動公園（宮崎市）を中心に事前合宿を行う。

２月25日（土）、26日（日）には、福岡ソフトバンクホークスとの壮行試合が予定され、ひなたサンマリンスタジアム宮崎において30,000人程度のファンの観戦が見込まれている。

県では、宮崎合宿が充実したものになるように、宮崎市をはじめとした関係機関と連携して受け入れ準備を進めている。会場周辺の交通渋滞への対策として、シャトルバスの運行や公共交通機関の増便を図るほか、合宿を盛り上げるために歓迎セレモニーや記念グッズの展示などを行い、チラシやＳＮＳなどを通してキャンプ情報を随時発信していく。

また、来県された方に宮崎の魅力を感じてもらうため、球場周辺で地元特産品を販売し、観光ＰＲブースを設置する。合宿に足を運ばれた方には、ぜひ、史上初４大会連続の内閣総理大臣賞を受賞し、「おいしさ日本一」となった宮崎牛をはじめ、地鶏や日向夏、きんかん「たまたま」などのおいしい食べ物と花や緑にあふれた南国宮崎の風景を堪能してもらいたい。

2021年の東京オリンピックで悲願の金メダルを獲得し、日本中に大きな感動を巻き起こした侍ジャパン。ＷＢＣでの世界一奪還のお手伝いができるよう、県民一同おもてなしの心でお迎えしたい。



《問い合わせ先》
宮崎県スポーツランド推進室
TEL：0985-26-7108

鹿児島 Kagoshima



YouTubeで学ぼう！県政広報インターネット動画「1年A組　かごしまクラス」

鹿児島県では、県の施策や制度等をわかりやすく紹介する県政広報インターネット動画「１年Ａ組かごしまクラス」をYouTube県公式チャンネルで月１回配信している。

１月配信の動画には、塩田康一知事が出演。いよいよ今年10月に「国体」の名称としては最後の開催となる「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」について、大会の概要や各種ＰＲイベント、障害者スポーツ体験の様子などを紹介し、その魅力や楽しみどころをお伝えしている。

障害者スポーツ体験では、大会実施競技の３種目に挑戦。ＭＣを務める地元タレント・野口たくお氏と真剣勝負を展開した。１種目目のフライングディスクでは、鋭いまなざしでねらいを定めディスクを投げるも、思わぬ方向へ飛んでいき苦戦…。２種目目のスラロームでは、今まで車いすを押したことしかないと語る塩田知事が華麗な操作で障害物を避けていく。３種目目のボッチャでは、ルールに戸惑う２人。戦略が勝敗を左右するが、勝負の行方はいかに…!?

また、動画内で大会のイメージソング「ゆめ～KIBAIYANSE～」に合わせたダンスも紹介。こちらもご注目。



県がこれまでに配信した動画は、下記ＱＲコードからご覧いただきたい。公式チャンネルでは、観光ＰＲ動画などさまざまな動画を配信中。併せてチェック！

１年Ａ組 かごしまクラス　YouTube 県公式チャンネル

《問い合わせ先》
鹿児島県広報課
TEL：099-286-2098

沖縄 Okinawa



第32回北前船（きたまえぶね）寄港地フォーラム in Okinawa 開催！

沖縄県では本土復帰50周年記念事業として、２月２日（木）から４日（土）にかけて、「第32回北前船寄港地フォーラムin Okinawa」を開催する。

北前船とは、江戸時代から明治期にかけて、北海道・北陸・関西を結んだ廻船のことであり、広範囲の物流ネットワーク機能の役割を果たしていた。

沖縄は北前船の直接の寄港地ではないが、江戸時代後期、北海道で収穫された昆布が、北前船により下関等へ運ばれ、その後薩摩から琉球を経て中国（清）に届けられた歴史があり、その道筋は「昆布ロード」と呼ばれた。琉球処分により進貢貿易が終わるまで、琉球にとっても昆布は重要な輸出品となったとともに、沖縄の食文化としても根付いた。

ロワジールホテル那覇で開催するフォーラムにおいては、琉球王国時代の歴史に関する基調講演や玉城デニー知事が登壇する「沖縄のソフトパワー」に関するトークセッション、レセプションならびにエクスカーション等を計画している。アーカイブ配信も予定しているので、ぜひご覧いただきたい。



《問い合わせ先》
沖縄県交流推進課
TEL：098-866-2479

表紙説明　※当地域でオススメの観光についてご紹介します。

周南工場夜景
（山口県）

周南市の臨海部には、石油化学をはじめ、無機化学、鉄鋼、セメントなどの多彩な基礎素材型産業が集積し、全国有数のコンビナートが広がっています。

夜になると、その広大な敷地から無数の光が放たれ、まるで銀河のような壮大で幻想的な工場夜景を観賞することができます。臨海部に位置していることから、工場群の光が海面に反射するさまも非常に美しいのが工場夜景の特徴です。

周南工場夜景は、日本夜景遺産にも認定されている晴海親水公園や、巨大な煙突が目前に迫る三笹町、新幹線の車窓からなど、間近でその迫力を体感できるのが最大の魅力です。

JR徳山駅をはじめ、駅から徒歩で行けるビュースポットが複数あり、初めての方でも気軽に観賞することができます。

また、海上から工場夜景を観賞するクルーズツアーや、ベテランドライバーがご案内するタクシーツアー、工場夜景を客室から間近に望むことができる宿泊プランを持つホテルなど、さまざまな形で工場夜景を楽しむことができます。

毎年２月23日は「工場夜景の日」。普通の夜景とは違う、工場夜景ならではの魅力を、ぜひ周南市で感じていただきたいと思います。



《問い合わせ先》
周南市観光交流課　TEL：0834-22-8372
・動画URL　https://www.youtube.com/watch?v=F_SifZIqImo

スケジュール（２月）

日（曜）	会合名等
２日（木）	第１回九州・沖縄・山口ＥＳＧ投融資推進会議（福岡市・福岡国際会議場）
	九州国際医療機構　外国人患者受入のための言語対応ウェビナー（Web開催）
６日（月）	第５回九州MaaSプロジェクト研究会（長崎市・出島メッセ長崎）※Web併催
７日（火）	九州ＤＸ推進シンポジウム（福岡市・福岡県中小企業振興センター）※Web併催
８日（水）～11日（土・祝）	九州・タイヘルスケアミッション 2023（タイ・バンコク）
10日（金）	第２回サイバーセキュリティセミナー（福岡市・九経連）※Web併催
13日（月）	農林水産委員会林業部会第３回モクビル研究会（福岡市・九経連）※Web併催
16日（木）	第２回農林水産委員会（福岡市・九経連）※Web併催
20日（月）	下関北九州道路シンポジウム（北九州市・リーガロイヤルホテル小倉）※Web併催
21日（火）	ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会第３回企画部会（福岡市・九経連）※Web併催
	観光委員会第２回企画部会（福岡市・九経連）
	九州・大学発ベンチャー振興会議（福岡市・電気ビルみらいホール）※Web併催
22日（水）	産業振興・デジタル推進委員会第２回産業振興部会、第３回先進工場見学会（福岡県古賀市・西部電機㈱本社）
28日（火）	産業振興・デジタル推進委員会第２回デジタル推進部会（福岡市・九経連）※Web併催

新入会員企業（12月）

㈱日本設計

代表取締役社長　篠﨑　淳　　東京都港区虎ノ門1丁目23-1　　TEL：050-3139-7100　従業員数：979名
九州支社長　清水　里司　　福岡市中央区天神1丁目13-2　　TEL：050-3139-7500
事業内容：建築、造園、土木およびこれらに関連する設備、構造、インテリア等についての企画、設計、工事監理ならびに調査鑑定、他

◆九経連ホームページ　https://www.kyukeiren.or.jp
◆九経連メールアドレス　info@kyukeiren.or.jp
月報・ホームページをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

NOW, IT'S NEW.

一般社団法人 九州経済連合会

公式サイトが

全面リニューアルします。

サイト運用開始日「2023年3月予定」

九州経済の
動向をいち早くお届け!
新着情報配信サービス

スマートフォンでも
さらに見やすい
レイアウトに!



編集・発行　(一社)九州経済連合会
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号電気ビル共創館　TEL(092)761-4261(代表)　FAX(092)724-2102　　印刷　ダイヤモンド秀巧社印刷(株)